



## ドイツにおけるCFP、エコスーパーへの取り組みについての訪問調査今泉みね子氏訪問（2010年7月）記録

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者: 室蘭工業大学<br>公開日: 2012-04-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En): Carbon footprint system, Greenhouse gas, Supermarkets, The nuclear power generation<br>作成者: 岩佐, 達郎, 今泉, みね子<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10258/1004">http://hdl.handle.net/10258/1004</a>  |

## ドイツにおけるCFP、エコスーパーへの取り組みについての訪問調査今泉みね子氏訪問（2010年7月）記録

|                |   |
|----------------|---|
| その他（別言語等）のタイトル | An Interview on the Trial for CFP system and Eco-super in Germany A Record of the Visit to Ms. Mineko Imaizumi on July 2010 |
| 著者             | 岩佐 達郎, 今泉 みね子   |
| 雑誌名            | 室蘭工業大学紀要  |
| 巻              | 61  |
| ページ            | 25-40   |
| 発行年            | 2012-03-27  |
| URL            | <a href="http://hdl.handle.net/10258/1004">http://hdl.handle.net/10258/1004</a>   |

# ドイツにおける CFP、エコスーパーへの取り組みについての 訪問調査

今泉みね子氏訪問 (2010 年 7 月) 記録

岩佐 達郎<sup>\*1</sup>, 今泉みね子<sup>\*2</sup>

## An Interview on the Trial for CFP system and Eco-super in Germany

A Record of the Visit to Ms. Mineko Imaizumi on July 2010

Tatsuo IWASA<sup>\*1</sup>, Mineko IMAIZUMI<sup>\*2</sup>

(原稿受付日 平成 23 年 5 月 25 日 論文受理日 平成 24 年 1 月 19 日)

### Abstract

The dialogue with Ms. Imaizumi was done on 17th July 2010 at her house in Freiburg, Germany. The visit of Dr. Iwasa to Germany was a part of the collaborative study with Coop Sapporo on the technologies that reduced CO<sub>2</sub> in supermarkets. The Center of Environmental Science and Disaster Mitigation for Advanced Research in Muroran Institute of Technology started a collaboration project with Coop Sapporo in 2008. During the project, we visited the Sustainable Consumption Institute of the University of Manchester in 2008 to study the environmental issues in United Kingdom. This dialogue was planned to study the environmental issues in Germany. The subjects of the dialogue were as follows: 1.The Carbon Foot Print system in Germany. 2.The present state of energy saving and CO<sub>2</sub> reducing in supermarkets. 3.The act on prevention of global warming. 4.The perspective of the nuclear power generation in Germany. 5.*et cetera*.

Keywords: Carbon footprint system, Greenhouse gas, Supermarkets, The nuclear power generation.

### 1 はじめに

室蘭工業大学環境科学・防災研究センターはコープさっぽろと「Muroran IT - CO<sub>2</sub>OP Project」と名付けて小売業における CO<sub>2</sub> 削減対策の共同研究を 2008 年より開始した。2008 年には英国マンチェス

ター大学の持続的消費研究所 (Sustainable Consumption Institute) と近傍のいくつかのエコスーパー店舗を訪問・視察した。2009, 2010 年度もこの共同研究は継続され、この共同研究の一環として岩佐はドイツの環境問題の視察を行った (本特集「ドイツにおける CFP (Carbon Foot Print: CO<sub>2</sub> の足跡)、エコスーパーへの取り組みについて」参照)。本稿ではそのとき行ったフライブルグ在住の環境ジャーナリスト・今泉みね子氏への訪問調査の記録をまとめた。

この調査は 2010 年 7 月 15 日フライブルグの今

\*1 室蘭工業大学環境科学・防災研究センター、しくみ情報系領域

\*2 在独環境ジャーナリスト



図1 今泉氏宅玄関

泉氏宅で行われた。(図1)内容は、(1)ドイツでのCFPラベリングシステムの現状、(2)スーパー等の店舗の省エネ、環境意識、(3)温暖化問題対策の現状、(4)原子力発電に関する方向性、見通し、(5)その他、と大別されている。しかし、これはインタビュー形式の調査であるので、内容的には行きつ戻りつしているところもあり、区分けは参考程度に考えてほしい。また、本文中、岩佐の発言は文頭に「-」を付け、一文字分下げて記載されている。この記録では言葉足らずで誤解を招きそうな箇所、文意がやや不明瞭な箇所もあったが、記録ということで追記は最小限にした。今泉氏には会話の録音を許可していただき感謝申し上げます。テープ起こしについては環境科学・防災研究センター事務の田邊愛さんにお世話になった。また、ここには掲載しなかったが、ドイツ語会話の翻訳のチェックには本学ひと文化系領域のクラウゼー小野准教授にお世話になった。この場を借りてお礼申し上げます。本文中のミスや言葉足らずなど、本原稿の最終責任は岩佐にあることは間違いないが、記録として残しておくことを最優先としたので、ご寛恕を願いたい。

## 2 インタビュー内容

### 2.1 ドイツでのCFPラベリングシステムの現状

-本日はドイツのCFPシステムから始まってドイツの環境問題の現状について色々お話を聞かせていただきたく訪問させていただきました。よろしくお願ひします。

(この後、岩佐が環境科学・防災研究センター、

およびセンターとコープさっぽろとの共同研究の内容について簡単に説明した。)

-私はCFP制度について分担しているのですが、ドイツではCFPラベルは始まっているのですか？

まず、ドイツでは、(CFPの他で)一番有名なのが「ブルーエンジェル」。

-それはCFPとは関係なく？

関係なく、まずその背景としてどうしてCFPが重要視されていないかということ、一つは商品にやたらとラベルがあるということ、例えば食品部門では「Bio」というラベルがあるんですが、EUの「Bio」もあればドイツ独自のもある。ドイツには農家および農業加工品に関して有機農業、無農薬で行う農業団体がいくつもある。たしか9団体。それはEUのオーガニック食品より厳しい標準で行われている。それがついている食品がたくさんある。これは10年以上前から行われている。

そしてもう一つは「ブルーエンジェル」というものです。例えば、再生紙で作ったトイレトペーパーで、しかもクロロリンを使わないで漂白していれば「ブルーエンジェル」が付く。作った人が出して検査を受けて付く。今では30の商品部門の「ブルーエンジェル」があり、2011年までに100部門にまで拡大するくらい増えている。「ブルーエンジェル」は、CO<sub>2</sub>も含め環境に対しての影響のいろんな部門を検査してお墨付きをもらったもの。中にはたいしたものでもないものもある。例えば歯ブラシの頭だけ取り替えて「ブルーエンジェル」が付くものもあったりする。

-それ自身は財団か民間の財団が？

そういう財団があって、そこがやっている。CO<sub>2</sub>廃棄だけを目指してそれにラベルをもう一個作ることに意味があるのか？と。面白いのがあり、エコインスティテュートと連邦環境省とその下にある連邦環境庁が一緒になって出した2009年10月メモランダムというものがあり、プロダクトCFPに関するメモランダムに意見が書いてあり、分析してみても国際的にそれをやろうというわけけれども、評価基準がまちまちだからそれに意味があるのか、という疑問を出している。CO<sub>2</sub>ラベルの意義がどれくらいあるか、ということに対しても

疑問を出している。

もちろん、長所としてはラベルを出すことで消費者に意識を持たせ、「ここでこういうことをすれば CO<sub>2</sub>削減の可能性があるんだ」ということがはっきりして、それはいいことだし、生産者にとってもまずは納入者、買って来た材料がどうだということもあるし、流通、生産過程と考えなければいけない。それが明らかになるということはいいい、魅力的ではある。では、問題はそのラベルをつけたときに本当に市民に対していいということを教えることができるか、分からせることができるか。YouTube に面白いのがあって、CFP ってなんだか分かりますかとドイツの街で聞いていて、「CO<sub>2</sub>と足跡って何か関係するの？そんな馬鹿なこと言わないでよ」と。それほど分かりにくいと。

-あれは完全にイギリスが行っている。

その一方で学校では数年前に「CO<sub>2</sub> リュックサック」というものがあった。同じことなんですけど、CO<sub>2</sub> をリュックサックに入れて、一本のジーンズがどれくらい CO<sub>2</sub> を出しているかと。これも CO<sub>2</sub> に対してだけやることに意義があるのではないかと。ジーンズ洗うのにも水が汚れますよね。

-私たちが考えているのは、CO<sub>2</sub> の次は水がくるだろうと。

そうですね、水もですね。だから、市民にはわかりづらいのではないかと疑問と、比較ができない。どれが悪くてどうなのか CO<sub>2</sub> だけ見てどうしたらいいのか、消費者がどうしたらいいのかということがはっきり伝わらないのではないかと。

それと CO<sub>2</sub> 廃棄だけを取り出してラベリングすることが問題だと言われている。他の環境面での意味がこれだけでははっきりしない、と。環境ラベルが多すぎるといのももちろん。「Bio」マークもあれば「ナノ」マークもある、それともっと怪しげなのは、紙が再生紙ではない場合、熱帯雨林を使っていない、というのはまだいいとして、クローリンを使わないで漂白した、とそれだけしか書いていないけど、それでもなんかいいんじゃないと思っちゃうでしょ、たとえ熱帯雨林から来ていても。

データ方法論からして商品を比較できる CO<sub>2</sub> ラベルというのはそもそも不可能なのではないかと、本当に公正なものができるのか、なぜかという

特に食品の場合は、ものによって本当に多様だし、取れる時期によっても変動するし、保管時間が長いとか冷蔵時間が長いとか、あまりに違うものをどうやって一つのクリテリアでやることに疑問だと。それよりも大事なものは現在あるラベル、「ブルーエンジェル」の部門を拡大することのほうが重要なのではないかと。

-それは EU 全域には広がっていないのか？

それは国内の話なんですけども、もう一つ大事なものは重要な商品グループについては使い方を推奨することが大事だ。たとえば洗剤だったら今の半分でもいいとか、電球が一番ははっきりしているのだが、まずは使い方ですね。部屋中つけていたらエコと言ってもしょうがない。電気そのものを省エネで CO<sub>2</sub> を削減するといっても電力自身そのものを考えないといけない。話が広がると、土地利用とか、空輸するべきかとか、全部入れなくてはいけない。ある商品は空輸、ある商品は船で来るし、今度は消費者の買い物の交通手段までも。

-そうですね。だから私たちのやったものではそれをはずしました。つまり、それをやっても絶対意味がないと。今、日本やイギリスの方ではストーリーという形で店から持って帰った後消費者はどんな料理の仕方をしてどういう廃棄をする、そういうストーリーが 1 とか 2 とかあって、それに関して実際に計算するわけです。だから、そんな馬鹿な話はないから。店はそんな責任持てないし、ストーリーにインチキがあったら何の意味があるかわからない。だから、店が責任を持てる場所、それはどこまでかという、基本的には販売までだろうと。

ただ、ごみの輸送は？

-だからここまでです。ここまで計算して、消費と廃棄サイクルに関しては、はっきり言えば、消費者教育をちゃんとすることです。

でも店が発泡スチロールを集めることはできる？

-それはできますね。

そこまで入れて CO<sub>2</sub> 出せばもちろんいいですね。

-ですからいまのところはここまでで、製品としてコープさっぽろが北海道で流通をコンピュータで管理している、そういう製品だけをやっていく。それ以外に、流通経路が全然把握されていないものがいっぱいあるんですけど、時によっては違うところから買って来るとかそういうものに関してはまだ出来ない。

それでも一応やっていて、それに参加しているのが主に食品関係ですね。というのは、ドイツ市民ひとりひとりの温室効果ガスの40%は消費と食品、食物によるものである、と。そういうことで9の企業が参加してやっている。9の企業というのは、ドラッグストアチェーンDMとか冷凍食品製造のプロスタ、ヘンケル(洗剤)、ビール会社、レーベグループ(大きなディスカウントチェーン)、チボ(コーヒー)、テトラパック(本社スウェーデン)、ドイツテレコム、テンゲルマン。目標としてはCO<sub>2</sub>削減に繋がるような戦略作りと実践を調べる。納入者、生産、流通での削減と消費者が商品を買って利用するときのCO<sub>2</sub>削減について、CFPは媒体としてそれが本当にできるかどうか実験中で、例えばレーベではその中の一商品を出して来るまでにどれだけかという数字が書いてある。

-こちらでもやったのは、例えばうどんとかやりやすいからできたのだけれども、コープさっぽろのその商品に付くだけで、その数字が大きいのか小さいのかよくわからない。

だから、比較できるように多くの食品ができるようにならないといけない。そういうことを本当にお金と時間をかけて意味があるかどうか調べるためのテストプロジェクトでやっているわけで、調べるとこれが唯一のCFPについている。環境省の「環境」という雑誌があるのですが、それにも登場したことがないくらい本当に取り上げられていないもの。もちろん、環境のことを少し知っている人ならあれね、というようにわかるけれども、普通の人にはわからない。

## 2.2 スーパー等の店舗の省エネ、環境意識

ただ、調べていて面白かったのは次の質問にあった、スーパーの環境活動について。それにはいる前に、キーワードで出しておくくとグリーンピースみたいなのとかたくさんありますけど、環境団体はCFPの計算機みたいなのを出して、

入ると答えが出てくる。いつこの家がたったのですか?というから100年前とかいて、何重ガラスかというのでこれはすごく新しいガラスで入れたばかりなんですけど、2重ガラスでしかもPBCなんですけど、一番エネルギー効率がいいから。しかもペンキを塗りなおさないですむ。なので、最新式の窓を入れて、次に壁の中には断熱材が入っているか、もちろん入っていないです。ただ、こんなに厚いから、空気の層があるわけですよ、何十センチでしょう、50センチくらいあるかな。ドイツ人はいつも窓を少し斜めにして換気をしているのですが、そうではなくて一気に換気するほうが良いといわれている。15分間バーって入れて換気して閉める。そのようにしているかどうか、とか部屋の温度は何度とかそういうのをに入れていく。それでもうちの家は平均よりはよかったですよ。住むことに関しては、そういうことはグリーンピースでもどこでも探すといくらでもやっています。でも、普通の人には知られていないですよ。大体そういうものを調べようという人は、意識のある人だけですよ。

-そうですね。例えば、ドイツで今二酸化炭素の問題がありますよね。あれなんかどんな感じなのですか?

それはしよっちゅう言われているから、これはあとの政府の対策の方で言おうと思ったんですが、削減目標は達成したわけだから、EUの23%削減はしたわけ。

ラベルがたくさんあることで言い忘れたのは、電気機器は、「エネルギークラス○○」とつけることが義務付けられている。昔はAが最高だったのだけれども、もっといいものがでてきたからA+になって、もっといいのがでたからA++になって、

-消費電力ですね?

消費電力です。一年間に普通に使って何キロワット/時とでるわけ。これはもう何年も前から。その基準は年々上がっている。特に冷蔵庫はどんどん進歩している。だからこれに関してはいまさらなんだ、というところがあるわけです。面白いのは、これに関してはCO<sub>2</sub>の削減というより、省エネのため電気代を節約するために、お客さんはみんな店員に聞いているわけ、どれが一番省エネでどうなんだ、と。それは別にCO<sub>2</sub>を削減したいわけじ

やない、お金を節約したい、それだけの話で、それでいいわけです。

-そうですね。基本的にはそれがわかりやすいし、それが結びつくわけだから。日本でもその点はちょっとやっていると思うんだけど。

これが EU 規模で義務付けられている。ジャローウオッチ・・・というところがあるのだけれども、そこでも同じことを言っていますね。CO<sub>2</sub>削減だけではそれ自身がどれくらい地球温暖化（ドイツでは気候保護）の表示効果がないのではないかとされている。それはどういうことかということ、CFPを出すことによって最終的には企業が温暖化防止に対してどれだけお金を出すかということ、投資するかということ。儲かるか儲からないかの話だから。その効果を促せるようであればだめだ。つまり、CO<sub>2</sub>削減をすれば売れるのだからそれに対しての投資をしなくてはいけない。

-例えば、今、CFP のラベルをつけたらそのラベルが商品購入の動機付けになるかどうか。逆に言うと、ドイツではその動機付けになるようなものは義務付けられていて、電化製品や「ブルーエンジェル」もそうですね、

それから食品だったらエコマーク、これは最近やたらとついちゃって中国製のエコ食品もたくさんある。ディスカウンターでも必ず「Bio」って書いてある。そうなる怖いのは、総安売りになってくると、「なんだ、そうじゃない」という意見が絶対出てくる。「有機食品とそうではないものでも本当は変わらないよ」ということを言う人が出てくる。そういうことを言うと受けますよね。そうすると、全部が、本当に正直にやっている人のものまでがだめになってくるから、私はこれが怖いと思う。

-そういうものは絞ってちゃんとやるべきだということ。

そうですね。どれだけ信頼がおけるかと動向を見ていて思います。フランスですら「Bio」と書いた食品が多い。フランスは、なんでもかんでもどうでもいいという国なんです。原発好きでしょ。個人が第一だから、禁煙と書いていても私は知らないよ、私が吸うんだからとそういうところだか

ら、それでも「Bio」の食品が出ている。

-フランスで CFP の商品いくつかでていますよ。

それを本当に意識して買っているか知りませんがね。

-できましたら資料をどこで調べられたかという、コピーをもらえると一番ありがたい。

では、後で HP のアドレスなどつけて渡しましょうか。ひとつは eco-institute から、PCF プロジェクト、あとは、企業の CFP を調査してそれを森林植林で中和するプロジェクトもあるんですよ。forest finance group という。コンサルティングして、どうやったら CO<sub>2</sub> 出さないかとか、温室効果ガスを出さないかということ企業にコンサルティングしてその企業の CO<sub>2</sub> 廃棄を計算してそれを削減するにはどういふことをやったらいいのかとか、最終的にはそれでもだめなら森林植林にその分を出させる、と。飛行機に乗ると一人当たりすごいでしょ。その分を（植林）100 本分お金を出すという。それはちょっとやったんだけど、広がらないですね。安ければいいという世の中だから。

-日本だと経産省がこれに（CFP に）関わっているんですよ。

そうですね。みたところこれはまだ環境省ですね。エネルギーなんかはかなり経済省が関係してくるけど。

-政府の統一見解として進めるとか進めないとかそういう話は？

そこまではまだいってないでしょ。まだ環境省のレベルで言っているわけでしょ。

CO<sub>2</sub> ラベルと関係ないですけど、前に緑の党と社会民主党の連立政権のときには環境省も絡んで、観光に関しては CO<sub>2</sub> だけでなく水もごみもすべて環境に負荷のない観光地とかホテル、パック旅行とかにラベルを作るというプロジェクトがあったんですよ。ビアボノって、それは環境省の肝いりでやった。

-それは現在も残っている？

一応、最初は政府の肝いりでやってからその団体自身が有限会社になった。けどこのところ何も聞こえてこない。ある分野に対してビアボノってラベルを作った。ビアボノって、楽しく生きるといった意味ですか。ジャーマンウォッチに関しては投資と CO<sub>2</sub> 削減の話が出てくる。

-投資効果があるかないかとか商売との結びつきを言うのはなんとなく日本の場合にはちょっと避けているところがある。

でもそれがなかったらやるはずがない。

-そうですね、結局何のためにするかということですからね。日本の場合にはラベルを作るのは環境を守るためだよとか、企業がそのために負担すべき内容なんだよとか。

法制化しなかったら何もならないよね。

-だからそれではどこものらないだろう。コープさっぽろは、エコはエコノミーのエコだ、と。今の地産地消のものをやると CO<sub>2</sub> 減るだろうし、そういう付加価値のついたものが売れるように。

そうですね、それで生かすのはいいですよ。企業ごとのベンチマーケティングにてらしてエミッションが少ない企業に投資すべきなんだということを行っている。それでなければ自主的にエミッションの一定量だけで減少するような企業に投資すべきだと言っている。CFP に関係なくほんとやるならそういうところにやるべきだ。

私が好きなのは、ドイツで面白いのは全部お金です、というところ。一方で法律が絶対的に必要、推奨するには法律とお金で、モラルでは絶対長続きしない。

-まあ、ドイツは理屈っぽいから

そう、理屈っぽいから、何でも否定的にまず考える。一方では日本のほうがみんなまじめにやる。上から来ると。

-CFP に関してはある程度やり出してきて、イオンとか大手が 2、3 やったんですが、とてもじゃないけど全部はやりきれない。多分、今止まっているんです。エコプロダクト 2008 というので例えば

こんな形でチキンラーメンですね、PCR の策定ということでイオンとか日ハムとかこれくらいの企業がやってやりだしてはきているんですが、問題点が多すぎる。2010 年になってどこまで進むかというといまいち。

スーパーのことでは、最初はどこも同じかなと思ったんです。前調べたんでは、デパートのチェーンでカールシュタットというところがあるんです。カールシュタットは自社で持っている建物がいっぱいあるんだけど、取締役自身がそれを全部売って、それを店子として借りればいいじゃないかと。どんどん潰れていった。

カールシュタットともうひとつそれと同じようなレベルの（こちらのデパートって、日本のヨーカ堂みたいな感じなんです、高級ではなくて大衆的）ギャラリアカウホフというのがあるんですが、両方調べてみたらカールシュタットのほうは環境マネジメントから CO<sub>2</sub> 削減から全部一生懸命書いてある。イーマス、環境監査にも入っている。一方、カウホフのほうは 1 ページだけ、抽象的なことを書いている。

REWE（レーベ）、これは大きなスーパーチェーン、は例として最初の大きな項目がサステナビリティ、その下にいろいろあって、ひとつはグリーンプロダクト、フェアトレードでそれから独自の Bio 食品ブランドをだしている。その他にも Bio がついている食品を増やしている。2 番目はエネルギー、気候、環境という部門。その下ではエネルギー効率の向上、例えば、熱回収をすとか運送を合理的にやるとか従業員の教育とか。すごいと思ったのは、6000 の店舗を持っているのだけれど、全部あわせても計算上は水力、風力、バイオマス、ソーラー全て再生可能なエネルギー産の電力でまかなっている。計算上は、つまり、公共から電力ひいても自分でその分お金出資して作ってれば計算上ゼロでしょ。実際自分でもやっているんですよ。バイオマスは食品廃棄物でバイオマス出してバイオガスで発電すとか。

-それは店舗だけですか？生産とかそういうのも入っているのか？

ここは店舗だから流通業界。

-このあたりにもありますか？



あります。ただ、行ってわかるものじゃないですよ。こんなことやっているなんて全然知らなかった。

-店はそういうインフォメーション出さないのですか？

来る人があんまりそういうのに興味ないもの。Bio製品はおいてありますよ。でもおおよそBioだと思っていないからこれ見てびっくりする。安いから、という理由だけで行っていたのがこんなことやっていたのかと。省エネのテクノロジーをスーパーとか倉庫とかにしているとか。ミッション削減でエコ電力 3640kW ピーク電力の発電をソーラー発電でしているとか。

-それはREWEのHPに？

全部書いています。サステナビリティの下に全部かいてあります。

-REWEはあまり高級なイメージのスーパーではない？

ディスカウンターのひとつです。アルディーとリールっていうのが一番大きいんだけど、アルディーほどではない。億万長者の1位はアルディーですよ。こんなに安くていいのか、というくらい安くて。普通ナスって、こっちのは大きいから高いんですよ。でもそこいくと50セントくらいで売っているの。普通だったら2ドルとか払わなきゃいけないのに。ものすごく買い叩いて入れて、結構質がいい。

でもREWEのほうがいろんなことやっていておもしろい。コピー紙とか事務用紙は100%古紙。食品ごみをリサイクルしてバイオガスを電気に変えている。これだけでも2万トンのCO<sub>2</sub>削減。企業から出るごみ全体のリサイクル率が92%。

-それはリサイクルするための施設とか設備を作っているはずですよ。

というか、ちゃんと分けて出しているというだけの話です。プロプラネットというラベルを作っている。従来型のエコ商品ではないのに環境や社会に負荷の少ない生産加工をしている、大量生産で安いものなのに環境にやさしいものを作っていま

すというラベル。私、探しにいったのに見つからなかった。ということは、すごく小さいのではないかと思う。どこかにあるはずなんだけど、私には見えなかった。

リールというのはアルディーと並ぶ大ディスカウンターなんですけど、ドイツで最初の低燃パッシブハウススーパーを作った。ちなみにパッシブハウスというのは、南向きに省エネガラスを作って太陽熱を受動的に取り入れる。こっちは冷房が問題ではない。冷房はほとんどいらなし。そうではなくて暖房が大変なわけですよ。暖房でほとんどCO<sub>2</sub>ができています。だからそれをどうやるかというのが一番。特殊レンガとかパッシブ構造にして35%エネルギーコストを削減した。

-そういう意味では北海道と似ているんですね。

そうです、北海道はすごく似ている状況。照明も効率のいい照明器具を作るとか。それと、テングelmanは前から環境にやさしいということで有名なチェーンなんです。CO<sub>2</sub>廃棄でいくと、そこにすぐ出てきます。

-なんか新聞の記事とか出てましたね

他のテングelmanがそうかというところには疑問なんですけど、一応HPを読むとエネルギー効率とか地熱利用とかソーラー電気とか冷房装置の熱を他のところに利用するとか雨水利用しているとか。全体がどれだけやっているかというのはわかりにくいですね。もう一つは、ではそういうことをやっているからといって、消費者が本当に行くのかというのはありますね。

-エコが売り物になるかどうかというところ。日本の場合だとそれがなんとなくイメージ的にいいところがあるので、エコショップを作りましたとイオンなんかがいる。だけど、こんな大きい作って何がエコなんだというところがありますけど、それで宣伝してますよ。

それはこっち多いですよ。昔私ここに住み始めたころ、有機農業の食品の最初のお店があったんです。もう25年前から。だけど今はエコ商品のスーパーなんていくつもある。

-ありふれてるんでしょ？

ありふれているというか、やっぱり増えてきましたね。確かに高いですよ。だけど、普通にみんなお客さん入ってますよ。ほんとに多くなった。大きなエコスーパーね。普通のスーパーに一部だけエコ食品が入っていたりしてるんじゃないくて、商品全部がエコ商品という店。・・・アンナトゥーラ全国チェーン、独自のブランド商品も出している。他にベルリンに行けば大きいのあるんですが、ここだと、アンナトゥーラはほんとのエコスーパー。そうではなくて普通のスーパーでも、例えばさっきのDM、ドラッグストア、ここはすごい。従業員が6万7千人もいるのに自然化粧品とか独自の商品も出してるし、商品の多くがドイツ国産またはヨーロッパ内のBioのマークがついてものとか、エコテストという商品テスト団体があるのですが、そのエコテストでマークがついたものとかブルーエンジェルがついたものを多く取り入れたりしている。エネルギーマネージメントを運営上もやっているし効率のよい運送や、いろいろな賞をもらっている。このDMというのは普通のお店でありながら環境に努力している。

全体としては、制度があるから再生可能エネルギーが発達している。ドイツは今、電力のうち自然エネルギーが占める率が15%以上。これはどうしてかという再生可能エネルギー法と省エネ政令というのがある。これが政府の側がやっている大きなCO<sub>2</sub>削減のための方法。あとはごみのデュアルシステム、つまりごみを分けて出さないといけないというシステムがあるから、ある程度のスタンダードができる。例えば、スーパーがごみを全部リサイクルするのは、リサイクルしないで普通に捨てるのと捨てる料金がすごく高い。だからリサイクルに出したほうが得。そういうシステムがあるからこそできることで、得でないやらない。もう一つ大事なものは、運営をすることでやるのはいいとしても、エコスーパー以外のスーパーというのは結局商品の内容のほうであれが(良い)、というのをたくさん売っている。だからそこはどうなんだということがありますが、ディスカウンターでもBioの商品が増えているからそれはいい傾向なんでしょう。そうやって消費者教育ができるわけだから、だんだんにそれが常識になってきたらそれはそれでいいことなのではないかと思う。

### 2.3 温暖化問題対策の現状

国内にいるとたいしたことには思えないけど日

本と比べると日本は再生可能エネルギーでできた電力が1%か2%で、えーという思いはあります。前に省エネの会議に呼ばれて東京に講演に行った。その会場がおもしろくて、銀座の真ん中にあるようなところ。控え室が、外で太陽が出ているのにわざわざブラインドで仕切っている。それで電気つけている。それで省エネのことを言うから、えー、って。それを誰も不思議だと思わないところが恐ろしい。

-冷房をがらがんきかせて心地よい会場を作ったので省エネの話をする、と。

まして震えてたりしてね。寒くて寒くて。東京はそうですよ。私、見たことがあるんですが、震えて寒いから電気ストーブつけてる。

-長袖の服を持っていくっていうのはね。

女の子は震えてるわけ、寒くて。男の人が背広着て暑いから。

-僕がドイツにいたのは20年以上前なんですが、そのときにごみを仕分けしていたし、スーパーの袋も全部有料だった。はじめはなんてケチな話なんだって思ったけど。

あれは環境じゃなくて最初からそうでしたね。食品はね。

-まあ、結局そういうのが常識になってきましたからね。ドイツはその点早いと思いますから。そういう意味で初めイギリスにいったんですけど、ドイツのほうをぜひ見に行かないとだめだということ。

温室効果ガスの話ですが、今までで1990年比で23%下げてますね。対策としてはさきほどの再生可能エネルギーや、省エネ政令。省エネ政令はどういうものかということ、新しく建てる建物についての省エネ。室温を19度に保つために必要な暖房エネルギーがこれというのが、ちゃんとでている。それはどういう風に計算するかということ、ガラスの熱伝導率とか壁の熱伝導率とか。低燃住宅の基準を守らないといけないと。

-それはどのレベルまで要求されているのです

か？一般住宅まで全部？

そう、今は。だけど、たいしたことないんですよ。たいしたことないというか、今はスタンダードでしょ。

—そうですね。北海道だと断熱材入れてとわりとスタンダードになってますけど。北海道のほうではそれが住みやすくするためにということで、特にそれが省エネであるとか意識されていない。今年になってから経済だめになりましたね。あのあと車に省エネのポイント券みたいな出して、同じように住宅の省エネのための改築もしくは改造にポイントを出す。

それと同じです。決めてても、お金なかったらできないでしょ。補助金もいろんなのがあって、補助金だけでも本があるくらいなのです。それから、省エネ政令はまだ続いて、エネルギーパスって、うちは持っているんですけど、専門家にお金を払ってこれがどれくらいのエネルギー状態にあるかどれくらいかかるかということのを全部調べてくれてパスを作ってくれるんですよ。あなたの家はこれくらいですよ。エネルギー効果全体としてここですよ、というデータがある。もちろん古い家ですから緑じゃないですね。CO<sub>2</sub>エミッションが平米あたりいくらですよと。でも、そう悪くないんですよ。窓とか全部出てくるわけ。平均室温がどうのとか計算が出てきて、細かく書いてあるわけ。全体としてはこうですよと。すべての提案した対策をすればどれだけ省エネできるかとか書いてある。

—それで具体的には、こういうパスをつくることのメリットは？

メリットは、この家を売るときとか貸すときに見せなくてはいけない。この家は大体いくらかかるということがわかる。

—建物の売買のときにそれを見せなさいというのは何か法律とか？

あります。さきほどの省エネ政令で。なので、言ってみればこれもラベリングね。どれだけ投資してやればどれだけ得するということが全部書いてあるの。ただ、これも抜け穴なんだけど、うちは

何万円も払ってやってもらったけど、そのうちの何万円かは市が補助金で出してくれたんだけど、そんなのやらない人のために自分で簡単に診断できるインターネットがあり、すぐそういうのがでてる。

—それはOKなんですか？

いや、OKではないと言っているんだけど。政権変わってから、そういうことがあまり聞こえてこないんですよ。キリスト教同盟と自由民主党の連立政権で評判悪いけど、何しろ反エコでこれからどんどんいくから何も言わなくなっちゃいますよ。省エネ率のいいところのほうを買いたいとか借りたいと思うでしょ。

—そうですね、金がかかるかかからないかという話ですね。

省エネをちゃんとしたところを借りている友達がいますけど、家賃高いです。これが省エネ政令の例です。国の銀行みたいなので復興銀行というのがあるんですけど、そこがCO<sub>2</sub>削減プログラムというのをだして、それに対していろんな補助金があります。うちはセントラルヒーティングで地下室に大きなガスボイラーがあるんです。そこから水をわけるポンプを省エネタイプに取替えたんですよ。8、9万円かかるそのうちの2万円くらいはそこが出してくれた。

—逆に言うと、そういう制度がないとなかなか動かない

それはそうですよ。お金がなかったら誰も何もやらないですよ。

—自主努力でやりなさい、と言ったってそれは無理？

それは無理です。だけれども、そこがけしからんところで、保守系の政党というのは何かということと自己義務化というわけ。日本は自己義務化でいったでしょ？川崎公害のとき。だけどドイツは自己義務化でいかない。(自己義務化で)やったらやらないでしょうね。やはり法律がないと。

—僕が来た時は若い人たちは貯金しないで、もら

った金全部使って遊んだり、旅行行ったりするからそれは将来に対して国が補償してくれているからだろうと。

そうです、今でも。それで文句言うわけね。だけどそれはそうですよね。うちの息子は東京にいるんですけど、「いい収入じゃない」っていうと、「(ドイツと)全然違うんだよ。日本の場合将来全然保障されていないから、稼いで貯金しないと生きていけないんだよ」って。こっちだって段々さえなくなってきたけど、生活保護を受けている人が、「子供がもう一人生まれるから今の4部屋住宅じゃたりないから5部屋住宅にしてくれ」っていうと、それが通っちゃうのね。人間らしい生活っていうと、ひとりひとつ部屋がないといけなからって、すごく広い部屋をね。さっきのカールシュタットのようにならなくて迷惑かけている人が牢屋に入らないで、生活保護の人が一部屋多くしちやいけないのかっていうのはあるでしょうけど、全部は現実的ではないですよ。ドイツは2022年までに90年比で40%削減したいんですよ。それは今の政府も言っている。それはどうやってやるかっていうのは発展プランである。環境省がUBEで出てきますね。言葉上はどこでも言われていることですが、エネルギー効率の向上で20%向上とか、再生可能エネルギーの割合を今の3倍にする。

-産業界からの反対とかそういうのはでないんですか？

反対は出ないですね。

-反対を出すほどのことでもない

ただし、さっきの再生可能エネルギー法に関してはすごいさいますよ。どうしてかという、高いお金で買い取るわけですよ。買い取り料の高くなった分というのは、私たち全電力消費者が負担するわけです。私たち自身に対しては1ヶ月に何百円かくらいですよ。でも、アルミ工業に対しては大変ですよ、電気たくさん使うから。それで文句はしょっちゅう出てくるわけですよ。相当買いましたよ、太陽の電力の買取料も16%くらい削減したんじゃないかな。それによって競争を激しくさせようっていうのがある。ソーラー工業は今ドイツではすごく盛んだから痛手をこうむって

ますよ。

ドイツ独自の目標って言うのは40%削減、EUのレベルとしてはそんなに下げなくてもいい。でもドイツとしては野心的な目標を出している。総合エネルギー気候計画みたいなのを出したわけです。IEKPっていうのをだして、そこで、再生可能エネルギー法とか省エネ政令とかCO<sub>2</sub>建物改築プログラム、電力消費に関する総合的制限法。もうひとつは、例えば日本では高速道路有料でしょ？それが当然じゃない。(ドイツは)おかしな国なんですよ。それでやっとトラックだけ入れたんですよ。それをもっと広くしようと。自動車だっていればいいわけですよ。スイスだってフランスだって有料なわけですよ。なんでドイツだけ。それを言う勇気がないんですかね、政治家は。

-それはここで言うとうそごいことになるでしょ。僕がここにきたとき電車でいくより高速道路ベンツで走ったほうが速く着くんだもん。

それと、自動車税をCO<sub>2</sub>の排気に関してやるような計画がある。でもいま少しそうですね、古い車の悪い排気ができるような車は高いですね。

-ドイツの場合の自動車のメーカーというのはすごく大きい産業になってるわけですよ。

ものすごく大きいですよ。反対っていうわけではないんですけど、眠ってたというか、メディアにたたかれてね。何もしてないうちにトヨタに抜かれたじゃないかって。トヨタがこの前大変だったでしょ、あれでドイツはみんな喜んでね。それまではトヨタとかホンダに負けちゃってなにやってるんだっていつも言われて、それが、突然トヨタが大変だったでしょ。

-最近なんかベンツがブルーなんとかって

それと面白いのは、コジェネレーションで作った電気に対する優遇措置の法律があって、コジェネレーション法というんですが、そういうことで40%削減を達成しようと言っている。

-日本の場合は、そういう補助金というのが結構あると思うんですよ。

全体の枠構造が違うでしょ。日本の場合、電力は

自由化されていないわけですよね。そこで消費者が選べないわけ。ドイツの場合は、例えば、シュライナムという村の市民電力会社があって、そこは自然エネルギーしか使っていない。補助金は日本でいっぱいやっているけど、効果が小さい。

-規制緩和か

まあ、ひとつの規制緩和ですね。だけれども、本当は、日本は理想的でしょ。温泉はあるし、地熱発電はいくらでもできるわけでしょ。

-やろうと思えばですよ。

やろうと思わないほうが不思議ですよ。

-ないこともないと思うんですけど

すぐに何十%達成できそうじゃない。

-例えば国立公園だと国立公園だからなんだとか、ぐちゃぐちゃクレームが付く。

だからそうじゃないところだってたくさんあるわけでしょ。九州なんて、道路に捨ててるわけじゃない、あんな熱を。

-確かに温泉地に行くとき冬の融雪には使っているわけですからね。

こっちは何キロも掘っちゃって地震が起きちゃったり地盤がゆるんじやって。

-そういう意味では日本は恵まれているから、特にそういう利用を考えていないということ？

ものすごく恵まれている。まあそういうことしたら大企業は儲からないか。地域分散型というのは大企業は絶対儲からないから。だからやってほしくないからやるはずないです。一応発展プランの項目いいでしょうか？

はじめに、①発電所の再構築。

-その場合の電力というのは、火力？

そこが Mix って書いてないんだけど。石炭発電でも今はわりあい効率よくやっているんですけど、

50%が石炭発電ですから大変なことになっている。何も書いていないのが嫌なところなんだけど、それでCO<sub>2</sub>を3000万トン減らすって書いてある。

それから②コージェネレーションの割合を倍増する。それは買い取り料を高くすることによって。それで2000万トン削減。

それから、③再生可能エネルギーが発電、電力で占める率を今の16%から27%以上にあげる。洋上発電とかバイオマスが多いからね。これによって5500万トンの削減。

次は、④省エネ、節電ですね。これは効率のいい家電を使い効率のよいモーターを使い、待機電力を減らすことによって4000万トン減らす。エコデザインガイドラインとかを作りました。

⑤建物を省エネ改築によって暖房エネルギーを減らす。効率のよいボイラーによって4100万トン減らす。つまり、そういうことに対してお金を出すということです。

⑥再生可能エネルギー熱法というのがあって、電気じゃなくて熱に対して。新しく建てる時には、一部は太陽とかバイオガス、ペレットによって出さなくてはいけないという法律です。これによって暖房における再生可能エネルギーが占める率を2020年までに14%まで引きあげる。今は6%なんですよ。

-これはいろんな所でいろんな部門が関係するような内容ですね。

そうですね。一番大きいのは地元の暖房屋さんとか企業への発注が増える。改築もそうですが。大体こういうのは地域で頼むから。

⑦交通におけるエネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの利用、つまりバイオディーゼルを混ぜなくてはいけない。バイオディーゼルの7%まで混ぜる。政府がふらふらしていると困る。会社はつぶれちゃう。

⑧最後に、エネルギーではない部門の対策として、今は何も処理していないごみを捨てることはできなくなったので、機械生物分解処理または熱焼却する。(リサイクルして最終的に残った半分以下のごみ)これによってメタンなどの発生が少なくなっかなりよくなった。

-リサイクルできるものはリサイクルしなさいということはすでにやっています。

それはもう当然、循環経済物廃棄物処理法というのがあってずいぶん前から行っている。これは今の政府に変わる前に作ってあった計画。

この前の9月に政権が変わって、まず、2000年に脱原発法ができたわけなのにそれをやめた。脱原発法ができたときは19基あったんだけど、17基になった。その17基の運転期間を延長しよう。環境大臣は最高10年にしようと言っているが、他の経済大臣は15年、もっとひどいのは総合すると60年。そんなの安全対策がされていないから飛行機なんかが墜落したら大変。それなのにそういうことを言って喧嘩をしている。決定的になりそうだったらやはり危なくなつて、国の負債を少なくするため節約節約といい始めて、スウェーデンとかギリシャが大変なことになったから。アメリカと日本の負債に比べたらたいしたことない。だけど生活保護をまず少なくした。それから次に関連したのは原発を延長する代償として核燃料税というのをとりあげよう。そうすると企業が反対するけど、今政治家は夏休みに入ったから秋までストップ。バカンスは何よりも大事だから。

-僕が以前に聞いたのは、連続した1週間か2週間の休暇を絶対とらないといけない。

とらないとだめということではないけど、6週間とりますよね。娘を見ていても、超勤するともっと溜まっちゃうでしょ。でもそれは「取り決め」無いみたいね。「お金ちょうだい」といってもお金では上げられないとかね、だから、ちょこちょこ休みを取ってるみたいですけど、消化できなかつたりしてます。でも政治家もいなくなっちゃうわけです。空白。政治家も休まないと参っちゃう。

大事なのは政府のための専門機関が2050年まではエコ電力だけで全部まかなくないと言っている。だから原子力を延長するというのを阻止する方向にいつてしまう。これがある限りお金がそっちに流れないからダメなんだ、って政府の諮問機関が言っている。だけれどもこれは連立政権の政党間の合意の中で言っている。なぜかという、たった5%しか支持率のない自由民主党がやっぱり企業が大事だから、すごくばかばかしい法律を入れたんですよ。付加価値税といって消費税みたいなもの。あれをホテルだけ19%から7%に減らしてしまった。

-それはどういう意味が。観光客呼び込んで？

そうくると思うでしょ。でもホテルは全然安くしないもん。ホテルだけがもうかるわけ。何でそんな法律をいれようかというバカだなあってみんなに言われても変えないの。それはホテル業界から沢山政治献金もらっているから。

-なるほどね、分かり易くていいですけど。

ホテル代が安くなるわけじゃないですよ。ホテルが儲かるだけですよ、ホテル代とっておいて。これで財源が何十億かへっちゃったわけですよ。その分、生活保護か何かを切り捨てなければいけない。名目としては、それは経済成長促進法というのに入る。ただ15年とか言うわけですよ、理由としては再生可能エネルギーまでの橋渡しと平気で言うわけですよ。何の根拠もなく。阻止する方向に行くわけなのに、それは関係ないのです。政治献金がすごく大きいから。

-2050年までにエコ電力でまかなうというのは「可能性はあります」と言っている訳ですね。

しかも政府の諮問機関、環境庁の調査がそういうわけですよ。それは現政府のですよ。

## 2.4 原子力発電に関する方向性、見通し

-今日本では原発というのを商売に使おうとしている。具体的にはベトナムや中国とかに。

それはドイツもやってますよ。中国にももちろんシーメンスとかは、原発作る会社はもちろん商売ですよ。他の国のことなんて知ったことではない。国内は捨てるところが全然ないし、めっちゃくちゃ。コール首相のときに最終処分場に決まったところなんて、科学的に見てここ安全だからと決まったわけではない。政治的にここ決めてしまったから、いくら学者がここ危ないといっても決まってしまう。

-核燃料とか原子力の関係というのはすぐ経営利益とか結びつくから政府のそういうのが非常に強いというのはわかるんですね。

電力会社がそれを牛耳っているわけで、もちろん消費者が自分でこちらに契約するといえればそれはできる。でも普通の人はそのままですよ。そうす

るところが牛耳っているのはすごいですね。その系列が原発を動かしているわけだから。そもそもが供給会社と配給会社が独立してないというのがよくない。

-アメリカは独立してるではなかったっけ。それで供給会社がストしたら電気が来なくなるって。だけど今、二酸化炭素の問題を考えた時、緊急避難として原発を動かすというのはどうなんですか？

でも緊急にストップとかできないから動かせないわけでしょ。

-いや、すぐに二酸化炭素の発生（が無いという意見が出てきます。）

それは政府とか一部の推進者はそれを使いますよ。だけれども他の人は、それは使わない。結局、それに変わる危険がものすごく高いこと、だんだんウランとるのが大変になってくるからもう何年かしたらCO<sub>2</sub>廃棄のグラム数はガス発電と変わらない。だからガスでやったほうがいい。

-今、少なくとも処理、放射性廃棄物の処理をどうするかということは一切今の計算に入っていない。

それが「入ってる」という人と「入っていない」という人がいて、だからこちらの計算はCO<sub>2</sub>廃棄が高いでしょ。日本の計算はそれを入れていないから少ない。

-でも本当にそれでOKなんですか、という話がありますよね。今現在それは最終的に解決されていない

それで何年後にどうなるかということまで入れたら恐ろしいことになる。しかもほんとにすごい事故が起きたときに原発会社が払わないといけない損害賠償料というのは限られていて、残りは全部税金からでるわけです。日本もそうだと思いますが、無制限ではないと思いますよ。何十億は払うと思いますが、あとは出ないですよ。出せないですよ。出すために積み立てにしておかないといけない。でも積み立てをしてもそれだけでは足りない。だからあまりにうそのところが多すぎて、一

応処分まで入れているけどどれくらいかかるかわからない。

-ドイツは原発を減らしていくという話だったんだけど、ストップかけて伸ばしているわけですよ。ということは世界的に原発というのは認められている状況になる。

そうです。それが国民にあまりに現状をちゃんと教えていない。CO<sub>2</sub>はゼロではない、少なくとも50グラムとか100グラムなのにね。それをゼロって言っている。それが、まずうそでしょ。

-そんな馬鹿な話はないわけですよ

風力と同じくらいじゃないですかね。CO<sub>2</sub>削減はまったくのうそだとは言っていないし、それから危険性がやはり（大きすぎる。）

-何か起こったときの話は絶対しないですね。「起こらないようにしている」と言うだけ。

起こらないようにしていない。どうして、「しないで良かったか」というと、今までは2020年までに全部止めるという約束だったから、その代わりに「安全対策しないでいいです」ということだった。「しないでいいです」というところだけそのままにして、寿命を延ばすという。本当は寿命を伸ばすからには安全対策をやらねえといけねえ。でもそうすると、ものすごいお金がかかる。それでは採算が合わない。しないで伸ばすなら一ヶ月あたり何百億入ってくる。それならやりますよ。それで税金入るわけだから。

-でもそれは一般的にはあまり興味ないから

みなさん分からないの。ちょっとインターネット見れば出ていることなんだけれども、そんなことしようという人はあまりいないでしょ。それで、森に風力が立つとみんな文句を言うわけ。風景のアスパラガス化っていうんです。そしてこのすぐそばに、30キロくらいのところにフランスの原発があるから壊れてほしくない。そしたら私達ここから出られないんですよ。それに対しては何も言わないの。

-それは、あまりにも落差が大きすぎる。目に見

えない、想像がつかないから。

想像がつかないという、そこが大変ですよ。人間の想像力の限界をどう克服するか。

-だって、毎日毎日立っているものは見えますけどね。原発なんか箱の中で見えないですからね。

それで安ければいいということがありますからね。そういうことすべて啓蒙をどうするかというのは難しいですね。最終的には、民主政治であるなら啓蒙して民衆が正しい意見を持つように導かなければいけない。だけれども、導きたくない人が上にいるわけだから。

でも、ドイツのほうなんでフランスとか日本よりましなのかというと、一つは議論とか考えるとか好きだという批判的だという姿勢があったのと、市民運動です。70年代の反原発運動と80年に入って緑の党ができて、続いてチェルノブイリの事故が起きて、市民運動がすごく大きくなったんですね。それでそのおかげで脱原発法ができたし再生可能エネルギー法もできたわけだけれども、危機感がなくなってしまった。ある程度やってしまったから。そうすると環境団体の声というものはあまり聞こえてこなくなってしまった。

-最近そうでしょうね。一時に比べると、特に。できるところまでやっちゃったから。

## 2.5 その他（教育問題等）

今の若い人、学生は私が来たときとはちょっと違う。私が学生のときは何かというとデモをしていた。今の学生はデモをしない。それよりも雇用が。あのころはいい時代で、マスターやドクター、いい学位をとれば職があったわけです。感心したのは、あの時は日本と違って、教養人が社会のオピニオンリーダーで、政府に対して批判して社会に対してものを申すというその姿勢が強かったけれども、今はやはり少なくなった。

-ドイツの場合には、プライマリースクール終わった時点で、ハウプトシュウレイに行くかギムナジウムに行くか、(が決まりますね?)。

4年生から5年生に行くところで、あるいは6年生から7年生に行くところで、すごく喧々諤々しますけど、未だに3つに分かれる。ハウプトシュ

ーレもやめようかって言われているけど、結局ハウプトシュウレイっていうのは落ちこぼれがいくみたいになってしまっている。本当はハウプトシュウレイから16歳になって丁稚奉公しながら職業学校にいて、職人とか農業の学校に行くということ、デアルシュウレイっていうのは10年生まで、高校1年まで行って、幼稚園の先生の学校とか看護師の学校とかに行く。ギムナジウムの場合は13年生で、今12年生に切ってしまったところがあって、だから大変。そのあと大学に行ったり、大学行かなくても銀行に入ったりと、それが結構よかった。

今はドイツの教育制度がすごくだめだとか言って。私はそんなにだめだとは思わないんだけどね、娘を見ていても。ものすごく勉強しましたよ。受験勉強じゃないわけですよ、受験ないからね。でも、毎日ちゃんとやっていくためにはちゃんとやっていないと大変なわけで、ドイツ語は母国語だけど、他にラテン語、英語、フランス語とやってペラペラですよ。カナダに1年間行ったんですけど、その間に自信をつけたみたいですよ。周りができないから。数学が私よりできない人がいたって。そのあと帰ってきて大学入りましたけど、役に立ちませんでした。ハウプトシュウレを出た女の子たちと一緒に職業学校行きましたよ、縫い物の。でもできないわけ、縫い物なんて習わないから。英語、フランス語はペラペラでも縫うことはできないから大変。それで職業学校3年もいきましたよ。大学6年もいたけれども、今、服飾メーカーのデザイナーとってますけども、まあ大変ですよ。

-それはものすごく目的意識がはっきりしているということでは？ 私は大学出てこちらに来たんですけども、そのときにドクター出た人間というのがものすごく違う、もしくは大学出た人間の目的意識がものすごくはっきりしている、と思いました。そういうのが最近崩れてきているのですか。

いや、そういうことじゃないですね。どっちかっていうと、失業とか資格なくてブラブラしているのがあまりに多いわけ。トルコとかの出身でドイツ語できなくて未来がないですよ。子供のときからお酒飲んでブラブラしている。そういうのが一方でできてきちゃって、どんどん増えるわけですよ。それで学校でも問題になる。それと、大



学がタダでしょ。タダだから、大変なところもある。マンモス化してて老朽化していても。

-ひとつはアビトゥワか。資格試験。

そのあと入って、州によってここはそうですね、半年に500ユーロくらい手数料払いますけれども、基本的にはタダですよ。タダということは、税金から出さなくてははいけない、だからものすごく大変なわけですよ。でも有料化すると選んでもらえなくなるわけだからできないわけでしょ。

それともう一つの問題は、教育は州の担当で、州ごとに違う。レベルも違う。ここは高い。バーデンビュテルのアビトゥワで1.5といったらすごくいいわけです。ベルリンの1.5とは違うわけですよ。そういう差があって、引越すと違うとか。時間がかかりすぎだとか。

だけれども私は良い面もあると思う。私は日本の大学で何も学ばなかった。こっちは専門的だから、6年も行ってディプロマ、今ディプロマないんですよ。バチェラーが入っちゃったわけ。学士3年でとっちゃって、就職なんてできないわけです。学校終わる年齢というのがこちらはすごく高いわけです。時間がかかる、その前に兵役があったり、みんなぶらぶらしてから行ったりする。日本とかアメリカ、スペインというのは20とか22とかで大学が終わっちゃうわけでしょ。だからそれがあたかも良いことのように雑誌に書いてあるんだけど、そんなことはないと思うんだけどね。ドイツは一応専門家を育てているからね。専門教育だと、それは私留学してみてもわかったんですね。日本のように書けばすぐできるようなレポートはなくて、毎回レポートという、日本の卒論くらいを書かなくてははいけない。ただ、その効果がないのかなというのはあります。

-そこまでやらせてどうなんだ、というわけね。

そう、日本だと企業内教育でしょ。なんでもいから出て、そのあと会社入ってやるわけでしょ。こっちはもう人材は育ててあるという仮定の下で入れるわけだから、専門家として。その差を見ないでドイツは悪い悪いって自己批判してるんだけど、それはどうかなって。

-最近、日本の企業にはそういう余裕がなくなってますから。それは企業がだんだん言い出してき

ていて、専門の能力要らないから、一般的なジェネラルな能力をちゃんとしてくれ。そしたらその場合に、いろんなことの融通がきくようなそういう人間でかまわない。専門家はもっと違うところから専門家をとる、と。

どこからとるんですか？

-大学で共同実験しますよね、産官学で。その修士、それをひっぱるとか、ドクターでも本当にそこで必要なものを持っている人間。だから大学というものの意味があまりなくなってきた。

学士までの段階というのが。

-だから、工学部だったら修士まで出ないと意味がなくなってきた、では4年生で出てどうするの、という話。

でも前からそうだったよね。英文科でも英語がわからない人いたもんね。それがそうなら、ドイツの場合は良かったわけですよ。マスターかディプロマだと、日本の修士に当たるわけですよ。みんな専門家としては入れたのに、逆なんですよ。バチェラーを入れて早く終わらせてしまうというのが。教育の限界というか、どっちをやるかというのが難しいですね。

-僕自身が以前きたときにドイツの教育システムがいいのかな、と。かなり酷ですよ、子供にとって。酷ということはないんですか？

酷ではないですね。まあ、受験勉強よりは意味があった気がしますけど。

-それはギムナジウムに行った人は、ですよ。

早い段階で分けちゃうということ。そう、それはものすごい問題です。ぼーっとしてて、後からもものすごい頭がよかったっていう子供は大変なんですよ。いっぱいいるでしょ？ 4年生まではぼーっとして実際はできるけど、それはそのときの担任の先生がこの子は大丈夫なんだよ、ということを書いてくれなかったらダメだったというのはいっぱいありますね。

-それはやり直しがきくような形にはあまりな

っていない？

やり直しはききますけれどもすごく大変です。それは違う指導要領だから。私指導要領全部集めたことあるんだけど、全然違うから。例えば、デュアルシューレイだったら、家庭科だったり。男だったら技術。今は技術環境で、家庭科だったら家庭と自然とかね。そういう環境のことが入ってるわけ。そんなのギムナジウムに無いしね。外国語も2ヶ国語か1ヶ国語で、ギムナジウムは3ヶ国語ですからね。落第ありますから落ちるのは簡単。はじめに入っておかないと。今は40%くらいの子供がこっちにくるんですけどね。みんな親は無理して行かせるんですよ。で、あとから大変なの。親のバックアップが無かったり、家庭内がアカデミックじゃないと大変。それは酷ですよ。だから、今言われているのは少なくとも6年生までは同じにして、それから分けるべきだと。ドイツは階層社会だから。日本の場合すごいのは、農家の人だって、昔は「朝日ジャーナル」とか岩波の「世界」とか読んでいて、東大だってマンガ読んでいてそこが民主的なのと。

-日本人は皆さん平等でエリートも何もない

それはいいことでもあると思います。こっちは、付き合うというか知り合うチャンスが少ないですよ。周りはやっぱり学校の先生とか。お金はない人は沢山いますよ。借金抱えているけどアカデミックな人。アカデミックな失業者。だけど、みんな大体そういうレベルでしょ。だから、そうじゃない人を知らないんですよ。娘もギムナジウム行っていた。(その時)ダンス習っていたから、そこで初めてデュアルシューレイとかハウプトシューレイの子に会った。でも会話が全然違うから友達にならなかったね。だって、歩くたびに鏡見て、化粧こんなで、彼女にとっては違う世界だった。結婚にしても何にしても階層で固まっているわけね。でも今、職業で会社入って初めてそうじゃないところの人と一緒にってますけどね。

-社会としてはどうなんですかね。

何を持って「良い」と言うか、「悪い」と言うかですよね。ただ、イギリスほどではないです。イギリスはもっと階層性がきついみたいですね。

-あんまり悪平等にするのもどうですかね。

何を平等にするかですよ。ただ、おかしいのは、同じ仕事に対してもっとお金が払われても良いんじゃないかと思えますけどね。

(以下一部省略)

-今日はどうも長い間多岐にわたるお話をありがとうございました。お疲れ様でした。この後、お勧めに従ってドイツのエコスーパー等を訪問する予定です。また、機会があればドイツの環境問題等についてお話を伺いたいと思います。

### 3 終わりに

以上のように2010年7月の訪問調査を終わったが、まさか、その機会が翌年すぐに訪れることになるとは予想もしなかった。2011年3月11日に東日本大震災が襲い、福島第一原子力発電所での「事故」が起こった。ドイツは、本対話で触れられている『「脱原発」の見直し』を見直し、全面的な「脱原発」に踏み切った。シーメンスは原子力関連事業からの撤退を表明した。このようなドイツの状況の変化について、今泉氏に「ドイツの環境政策の変化」と題して2011年10月12日に室蘭市市民会館大ホールで開催された『室蘭工業大学と一緒に考える「これからのエネルギー社会にむけて」』で報告していただく機会を持つことができたのは喜んでよいことなのかどうか、判断に苦しむところではある。